

## 令和6年度 第4回まちづくりミーティング

令和6年10月24日（木）18時30分～

森本公民館

森本、花園、湖南、薬師谷、

三谷校下（地区）

### (1) 市長あいさつ

【村山市長】

皆さん、こんばんは。

平日の夜のこの時間、何かとお疲れのところだと思いますが、本日はお集まりいただきましてありがとうございました。

本日は、森本地区、花園地区、湖南地区、薬師谷地区、三谷地区、5地区のまちづくりミーティングということで開催をさせていただいております。

このまちづくりミーティングの前に、おとし、市長に就任したそのすぐ後の令和4年度に、これからの新たな都市像をつくるということに当たって様々な説明をさせていただくような場を設けさせていただきました。

そして昨年度、令和5年度からは、従来いろんな形で、山野市長、山出市長の頃からもやってきたわけですが、こうして地域にお邪魔して、お話を聞き、そしてどのような課題に対してどう解決していくか、そのようなことを一緒にお話をしていくという、今回はまちづくりミーティングという名前に変えましたけれども、3年間で全ての地区を回るというような形で取り組ませていただきたいと思います。

本日議題となった各地区のテーマ、そして共通のテーマについては、非常に地域のことを真剣に考えていらっしゃる、お困り事も様々あるんだなということを感じさせていただきました。後ほど局長のほうからも答えさせていただきますけれども、私のほうからも思ったところをお話させていただきたいと思っております。

改めて本日、今週末に金沢マラソンがあり、そして衆議院議員総選挙もあるというお忙しい中で足をお運びいただきました。開催に当たってご尽力いただきました地元町会の皆様方にも御礼を申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。

よろしく願いいたします。

(2) 地域代表あいさつ

【森本地区町会連合会長】

皆さん、こんばんは。なかなかお忙しいところを出ていただきまして、ありがとうございます。  
います。

私のほうからは、実は1月1日の地震の折には避難をしていたんですけども、2日の日に自分のエリア、森本9町会を全部回りまして、梅田、観法寺、それから東森本、それから吉原、塚崎、それと南森本、北森本を回ってきたんですが、重いものはみんな倒れまして、すごいことになっていました。それで、トラロープとかいろんなものを張っておりまして、吉原なんかは老人会の方々が出られまして全部ロープを張ってありました。そういうことを目の当たりにして、すごい地震だったんだなというふうに思いました。

実は私のところは灯籠が倒れまして、町会長にはいろいろお世話になったんですけども、町会長が処理をしていただきまして、すごいことだったと思います。

そういうことで一回りするということはやっぱり必要なんだなと思って、ずっと私は災害というか、風が来たとき、雨が降ったとき、それから災害、そういうときには必ず大体見に行くんですよ。一回りしていくんですけども、そういうことでとにかく皆さん大変だったんだろうなと思います。

森本地域もいろいろありまして、花園駅以外は全部地域に絡んだことだと思いますので、ひとつよろしくをお願いします。

(3) 地域課題の説明、課題に対する市の方針等の説明、協議

金沢方式の見直しの進捗状況について（森本地区）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【森本地区町会連合会】

一つは、金沢方式をまず見直しされた、その経緯というんですかね、なぜ見直しをしようと思われたのか。その辺から一度確認をさせていただければと思います。

というのは、これまで金沢方式は、どちらかというと金沢市が誇る全国にも非常に先進的な方式だというふうに市からは説明を受けておったと思うんですけど、それを今回見直

しされたというのは、何が問題なのか。

それから、地元とすれば、できる限りですね安いほうがいいにこしたことはないんですが、いわゆる応分の負担とか、そういうものを市としてどんなふうと考えておいで、何をきっかけに見直しをされようとするのか。

それと方向性としては、具体的にどれくらいの軽減を、これは懇話会に諮られてからのことだと思いますけれども、今現在4分の1ですか、地元負担が。それをどの程度軽減をするというふうに考えておいでいるのか。

その辺を少しお聞かせいただければと思うんですが。

#### 【村角都市政策局長】

大きく分けて2つかと思います。検討を始めるに至ったきっかけ・経緯、また、具体的な応分の負担がどれくらいになるのかということでした。

まず、きっかけ・経緯でございます。

先ほど、市長のご挨拶の中にもありましたが、一昨年、10年先、20年先の金沢を考えていくときの新たな都市像について、地域の皆様とのミーティングを重ねていく中で、地域コミュニティの活動について様々な課題をいただいたところです。

人口減少、少子・高齢化が進む中で、地域の活動を担っていく後継者が少ないということ。加えて、近年の物価高、建物を建てる時の資材の高騰、こういったものについて非常に負担感というものが増している。といったご意見を多く頂きました。

現在、市が4分の3、地元の方が4分の1という形ですけれども、数十年ずっと同じ率となっています。社会の環境が変わってきている一方で、この負担の割合をなかなか変えてこられなかった。ずっと継続してきたということにもまた意義があるんですけども、そこに昨今の様々な社会課題の影響があって負担感が増しているというお声を聞きました。新たな都市像の検討を進める、計画を策定し取りまとめる中で、この金沢方式の見直しについてスタートを切っていきたいと考えた次第です。

もう1点は、具体の負担率でございます。

第2回目の懇話会で、地元負担の軽減という方向性をお示しさせていただきましたが、委員から2つご意見がありました。

一つは、全て金沢市が負担することになった場合、市の財政は大丈夫なのかというご意見、もう一つは、今後、公民館並びに児童館の建て替え、施設整備が大きく増えてまいり

ます。1960年から70年代に建てられた建物が非常に多い中で、建て替え、リニューアルが増えてきたときに、長期的にその費用がどれくらいかかってくるのか。まずはそこをシミュレーションすることが必要なのではないか。それによって、地元負担がどうなっていく、市財政に与える影響がどうなっていくかということを将来的に展望した上で、持続できる率にしていくべきではないかというご意見でありました。

現在、そのシミュレーションを進めています。それを第3回目、来月の懇話会にお示しをさせていただいて、議論を深めていきたいと思っています。

4分の3、4分の1をどれだけ軽減するかについては、まだ検討の途上ではございますが、軽減するという方向は決めさせていただいておりますので、シミュレーションの状況を見ながら議論を進めていきたいと思っています。

#### 【村山市長】

金沢方式について議題に上げていただきまして、ありがとうございました。

金沢方式については、昭和30年代、公民館が金沢程度の規模であったらば、全国的に見ると平均は30ぐらいしかないという規模でありますけれども、それを校下ごとに一つ、住民が負担をしてでも設置をしてほしいという要望を受けて、原則校下ごと設置したのが今の金沢方式の始まりであります。

これについては、ひょっとしたら1488年に一向一揆が富樫氏を打ち破って住民自治を恐らく全国で初めて行ったというような、金沢市民の住民自治がいかにもいいものであるかということの、その心を受け継いで行われたことなのかもしれないとも思っております。

そういった意味で、金沢方式、これまで公民館や児童館、消防団関係の施設に対して、住民の方、地域の方の一定の負担をいただきながらつくってきたからこそ、自分たちの公民館、児童館、消防団として運営ができてきたという歴史があると思っています。

一方で、この金沢方式の見直しについて、先ほど村角局長のほうから述べたように、人口減少、少子・高齢化の社会になって、そして町会の加入率も若干減ってきているような町会も多くございます。

さらに、建設資材の高騰、物価高騰などもあった中で、このまま金沢方式を維持できるのかということが課題になり、今回検討を進めさせていただくことになりました。

この検討を進めるに当たっては、市議会からもご意見をいただき、そして一部の議員の方からは、市長、これはもうパンドラの箱を開けたなと、触れてはいけないところに手を

つけてしまったんじゃないかという言われ方もしましたけれども、おかげさまで金沢方式のあり方の検討会の中では、この方式については、やはり大事なものであって、地域コミュニティをこれから先に持続的に継承していくための措置でもあるとご意見もいただきました。

先ほど局長のほうからの答えの中で、具体的にどんな率になるのかということ、答えはありませんでしたけれども、今検討会のほうで議論していただいています、先ほど申し上げたとおりに、来年1月には第4回の懇話会、ここで大体の案が示されてくるであろうと思いますし、来年2月の予算編成では、2月下旬に公表する予算編成の中では、その具体的な数字が見えてくることになります。

いずれにしても率が下がっていくということは間違いないということですので、また今後の議論について注目していただければと思います。

花園駅（仮称）の新設（花園地区）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【村山市長】

花園駅についての地域課題をいただきました。

現状で申し上げますと、需要予測に基づく費用対効果というところ、恐らくIRさんはここを見た中で、それが期待できないというような判断の中での現状になっているんじゃないかなとは承知をしております。

一方で、例えばほかの地区、都市部などの私鉄の鉄道線などは、その地域の宅地開発とともに線路を延伸しているというような事例が数多く、私鉄ではあります。西武、東急、京急、そんなところは宅地開発を伴ってと。それはその採算性も考えてということの宅地開発を行っているということだと思います。

そういったことがもしあれば、現状、市街化調整区域でありますけれども、そこも状況が変わってくるかもしれないとも思いますが、それに当たってはまた一つハードルがあって、IRいしかわさんの採算性、これは現在、金沢以南、以西についても延伸をしたという中で、その経営がどうなっていくかということと、あるいは、株主である石川県をはじめとする沿線の自治体の方々の意見調整、そのようなところも必要になってくると思っ

ています。

そういったことが課題ではありますけれども、I R いしかわ森本駅から金沢駅までは7分ですかね。非常に交通至便な場所だと思います。花園駅がもしできたとしても、位置によりますけれども、10分かその程度で行くところになると、その夢は広がるわけでもありますので、先ほど村角局長のほうからそのような意見があったということ伝えるということでありましたけれども。具体的なビジネスチャンスとしてI R が考えられるかどうかというところが一つの勝負のところだと思っていますので、そういった視点も含めて、私も取締役でもありますので、I R に対しても話をしていければと思います。

#### 更なる空き地・空き家対策の推進（湖南地区）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

#### 【花園地区町会連合会】

岸川町だけしか私は分からないんですけども、ほとんどが田畑なんです。その放棄地の草刈りをしているんですけども、それが多面的機能支援経費というのが農業振興課かな、が管理して、国の政策でやっています。県に下りてきて、町に下りてくるんですけども、それが非常に面積が狭いので金額が少ないんですね。

草刈りに出てくる人も、農業をやっている人と、それ以外の人、町民と協力してやっているんですけど、高齢化が進んでなかなか人数が集まらないというのが現状です。お金があっても人がいないというのが現状です。もし外注するとなると、今の金額ではスズメの涙で全くできないという状況です。

ここの公民館の裏手の南森本地区になるのかな、町会になるのかな。ここはすごいですよ。もう放棄地だらけ、草ボーボーです。市長さんは夜に来たから見えないと思うんですけども。中学校があって、その前がセイタカアワダチソウでいっぱいです。

空き家については、ハクビシンが大量に発生しています。その駆除、どういう資格を持ってやればいいのかよく分からないんですけども駆除もできない状況とかいろんな問題が出てきて、町民も怖いねと、夜中にぎゃーぎゃー鳴き声がするので、怖いねという話に今なっています。これも何とかせなあかんなと思っています。

市にいろいろ、山手のほうで空き地があるんですけども、そこをちょっと相談したと

ころ、道路課が来てみたり、関係ないところが調査に来て、すぐ来てくれるのはよかったんですけど、そのまま放置されるんですよ。次に行かないんです。要するに道路整備課じゃないよねとなったら、次どこなのかというのは私らも分からないので、つないでほしい。

結局いろいろぐるぐる回って、ごみ担当が来たんですけども、地主さんに連絡取りますと、6月頃かな連絡があって、いまだにどうなったか全く連絡がないので、どうなっているのかなという疑問を持っているところです。担当者は名刺を渡してくれないので連絡の取りようもないということなので、これについては、また来年度でもちょっと話をしに行こうかなとは思っています。

#### 【越山環境局長】

私のほうからご回答させていただきます。

雑草の管理につきましては、環境政策課というところが担当です。空き地の雑草等によってご近所さんの生活環境を脅かしているというところの指導は環境政策課ですので、ぜひご相談をいただければ、所有者を探して所有者の方にちゃんと雑草の管理をするように指導して参ります。

先ほどハクビシンのお話でしたが、ハクビシンも環境政策課が担当をしております。ただ、なかなか難しい問題がございまして、ハクビシンは自然動物でございしますので、原則は殺しては駄目ということになっております。ですから、それが例えば農作物を食い荒らして農業生産上問題があるとか、そういうようなことにならないと、殺すということはなかなか難しいものですから、ご相談は環境政策課にいただければいいんですけども、まずはハクビシンが嫌がるような薬をまいて、そこから排除するというような対策が第一義的な対策になるということをご理解をいただければと思います。

#### 【村山市長】

空き家、空き地にならないための対策というのがまず最初に大事でして、そのための対策を都市整備局建築指導課が担当して行っています。ぜひ町会の中でも、例えばご高齢になって老人施設に入居されるよりも前の段階とか、どう処分していったらいいかということをお話し合うことが大事でして、それを終活というような言い方をするかもしれませんが、将来のことを考えたくなくても考えておく。万が一、何かあったときのために考えておくというのが、結果的にはご近所さんに迷惑がかからないことになるんだよという

ことを進めております。

実際に空き地になったときの対策については、今ほど説明があったところですが、未だ対策を、今からまた高齢者世帯も増えていくので、しておく必要があると思いますので、そのことの周知にも努めていきたいと思っております。

市街地調整区域の見直し（薬師谷地区）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

#### 【薬師谷地区町会連合会】

今ほどの回答ありがとうございました。

今から50年ほど前までは、薬師谷地区におきましては市街化調整区域ではありませんでした。ちょうど高度成長期や第二次ベビーブームの人口増加と相まって、農地の乱用開発を防止するために市街化調整区域になったと聞いております。

当時は、じいちゃんや父ちゃん、息子夫婦の3世帯の家族で、多くの方が農業を営んでおりまして、私の町会におきましても十五、六件農業をやっておりまして。しかし現在は、農業をやっている方は4件のみであります。また、私の近隣の町会を見ましても、以前はたくさんやっておいでましたけれども、大体2件か3件、ゼロという町会もございます。

高齢化が進み、次の担い手はほとんどいません。今は核家族化も進み、子供たちの分家住宅は1,500坪以上耕作していないと建てることができません。大部分の農家は1,500坪以下の小規模な農家であります。

当地区は高齢化が進み、若い人はだんだん少なくなっておりまして、若い人は家を建てられないものですから、ほとんど津幡のほうへ行って家を建てております。

また小学校におきましては、私どもがいたときは200人ほど児童がいましたけれども、現在は80人ほどの児童数で、これからますます減少することが予想されます。

近くには金沢テクノパークや森本インター工業団地もあります。用地を提供した地権者は、地域が活性化することを期待しながら土地を提供しましたが、調整区域であるがゆえに、人が増えることもなく、活性化することもなく、交通渋滞という弊害のみが残りました。

自然環境がよく、交通アクセスがよい薬師谷地区を活性化するためにも、ぜひ市街地調

整区域を市街化区域に変更していただくことを切に要望し、お願いするものであります。

【高木都市整備局長】

ご質問ありがとうございます。

おっしゃるとおり、農業従事者が極端に減ってきている。これはほかの地域でも言えることかと思えます。それから児童数も減少している。そして、そこに住まわれる方も減ってきているというような現状の課題は認識をしております。

そういう中で、先ほどお答えの中でも少しお話をさせていただきましたけれども、この区域を一足飛びに市街化区域に編入するということではなくても、市街化調整区域のままであっても、将来の担い手の確保のためにほかの地域から移住者を受け入れるような、そういう仕組みというものを、三谷地区もそうですし、湯涌地区もそうですし、検討しているところでございます。その仕組みの中で、なるべくその地域の担い手の皆さんを確保する、あるいは定住を少しでも促進させる。

先ほど分家住宅の面積要件等のお話もございました。そういった面積的な要件とか、人の要件、そんなこともこの仕組みの中でどういうふうに緩和していけるかということを検討しているところでございます。

その中で、今よりも少しでも地域のコミュニティの確保、維持につながるような方策というものを見いだしていきたいというふうに考えております。

【花園地区町会連合会】

質問でもないんですけども、花園地区も市街化調整区域ということで、住宅がなかなか建たないということで困っているわけですけども。現状、津幡方面から金沢方面、8号線をずっと南のほうに向かっていきますと、津幡のエリアまでは住宅がいっぱい建っております、金沢市に入った途端に全く住宅がなくて、明かりがなくて真っ暗になるという状況があるわけです。

そういうところからすれば、金沢市に編入したばかりに、この地域は置いていかれているという認識が地域の住民にあるんです。この現状を市としてどういうふうに捉えているのかということも含めて検討していただきたい。ただ市街化調整区域ということだけじゃなくて、森本地域全体を金沢市の発展から取り残されているという認識が皆さん持っているんですよ。

そういう意味で、先ほどおっしゃいました、市街化調整区域であっても住宅を建てることに対しては柔軟な対応をするとか、そういうことで、取り残されているという認識を払拭するような施策をぜひお願いしたいと思います。

【高木都市整備局長】

決してこの森本地域、取り残しているという、そういう思いは全くございませんで、何とかして現状を少しでもよくできるようにということで、いろんな仕組みを検討しているところでございます。

その中で、少しでも今の制約要件、緩和できる方向で、何とかこの地域の活性化につながるような方策というものを見出していきたいというふうに考えておりますので、またぜひとも検討の際には、地元の皆さんともお話をしながら進めていきたいというふうに思っております。ぜひともよろしくお願いたします。

【花園地区町会連合会】

少なくとも、この地域の人が津幡で住宅を建てるというようなことがないように、対応していただきたいなと思います。

【村山市長】

先ほどもお話がありましたけれども、私も金沢から津幡、かほくに向けて8号に行くときに、地図上の境目が立体的に分かるという逆の経験をしています。一気に暗くなるんじゃないくて、そこから家が建ち始める。やっぱりそこに違和感を持った時期もありました。

これまでの金沢市長経験者の発言の中でも、森本は最後だみたいな話をした人がいるやに聞いたこともありまして、今、南部をやっているからその後だみたいなことを言った人もいるというふうに聞いています。

私は3年前の選挙で、この森本地区、北部地区を回った中で、この状況はちょっとまずいなと考えておりました。今年の2月に策定した未来創共計画の中でも、森本地区の公共施設の再配置ということを検討しておりまして、金沢市の計画の中で、地区名を明示して計画を打ったというのは恐らく初めてじゃないかなと思うんですが、それだけ北部地区の危機感を感じています。

今般、薬師谷のほうの保育所を統合するという話がありましたけれども、先週ですか、

新たな子育て拠点の起工式を行わせていただきました。その拠点施設というのは、保育所を単に統合するというだけでなく、子育て拠点の施設としてもつくっていくということで、魅力的なものをつくっていこうと思っています。この地区で子育てをすることの魅力発信するような拠点施設にもなっていこうかとも思っております。

そして、市街化調整区域を市街化区域にただけでうまくいくのかどうかというところについては、実はそれ以外の政策も伴わないと、うまくいかないとも思っています。

例えば、これは先週末ですけれども、三谷の東原のほうに行かせていただきましたけれども、ここでは、金沢北陵高校の生徒さんはずっと入っていただいて、そして金沢大学のインターンの学生も今年は入ってもらって、地域と例えば学校との関係をつくっていく。もちろん学校の生徒さんは、そこを卒業するとその地域に入らなくなるかもしれませんが、その地域を思う方々は増えていくと思うんですね。

これは関係人口という言い方になりますけれども、薬師谷地区にテクノパークがある。そこで働く人との企業と地域との関係というのは、つくることができるんじゃないかなと思っっているんです。

そういったこともこれから具体策を考えながら、森本地区、あるいは北部地区の発展について考える機会をより増やしていければと思います。

地域の伝統文化の継承と市内の活動団体との連携強化について（三谷地区）  
「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、  
レジュメを参照願います。

#### 【三谷地区町会連合会】

いろんなことの基は、まず話の前提ですけれども、三谷というのは、限界集落と新聞に何度も書かれて大変ショックを地元の者でも受けました。でも物の見方を変えれば、金沢市で問題の最先端を行っているところかなと。考え方を換えればそうなるなど。

じゃ、これをどうやって解決すればいいのかというので、これは私の個人的な考えにもなるんですが、2つあると思うんです。

一つは、先ほどからのコミュニティのことで言えば、文化というのは、例えば今の念仏踊りもそうですが、そういうものを協働でみんなで作れるというのは、それは我々住んでいる者の誇り、それから愛着、そういうものにつながっていく、精神的には物すごく大事

なものだと思います。獅子舞もみんなそうです。

そういったたぐいをきちっとどうやって残していこうかなと。残していくには、年寄りばかりで若い者がいない。森本のほうの民謡保存会のほうも、要はコロナで全部変わってしまっているんです。止まっているんです。コロナ後をどうつくればいいのかということが一番大きな課題ですが、何とか文化の面では、森本民謡会を再興させなければいかなんというのが私の個人的な思いです。

もう一つは、経済的なものなんですけれども、例えば総務省がローカル10000プロジェクトというので、補助率100%で、地域の経済循環創造事業を起こせというのをしています。100%の補助でやれと。

もっと簡単に言えば、地域にお金を落とす事業を地域でつくれと。金回りを地元に行き渡らせるように。お金が地元に着けば、そこで働く人ができる。そこに働く人がいれば、その地域に住むようになる。

減少化の基は、働く場所がまずないんですね。三谷なんかも特になんかありません。それをどうやってつくるかを考えるべきかなと。

コロナで全部ゼロからスタートになってしまいましたけれども、先ほどの東原の関係人口ということ言えば、まずイベントでどんどん人に来てもらって、理解してもらって、地域のよさを分かってもらわなければいけない。ところが地域のよさというのは、地元に住んでいる人は分からないんです。昔ある大学の先生に言われました。他所の者に見てもらえと。地元で見えても長所やいいところはそう見えないよと。それが当たり前になっているよと。東京のほうからそれを見るとすぐに分かるんだよという指摘を受けました。

そういう指摘を受けながら、ここで何をすればいいのかと考えて、団塊の世代で、私も団塊の一番下っ端なんですけど、そこで考えると、コミュニティやそういうのも分かるんですが、今のZ世代というか若者には全然通用しないところがいっぱいあって、どういふふうにつなげていけばいいのか。そういう踊りもそうなんですけれども、コミュニティも全然つながっていかない。関心が違う。

そういうところで、何とか芸能ではそういうものの仲間に入ってもらうにはどうすればいいか。三谷から出て、どこに家を建てたか。薬師のほうです、森本のほうです、金沢市内ですと。みんな出てしまっています。そういう子や孫が地元に戻ることに戻ってこれるようなことを起こさなければいけないのかなというのが気持ちです。

どうぞご協力をお願いいたします。

【津田文化スポーツ局長】

たくさんのご意見いただきまして、ありがとうございます。

大きく2つあったかなと思います。民俗芸能の継承の視点でいくと、若い世代への継承、また、コロナ禍における活動の場の縮小に対する対応等があったと思います。

その点につきまして、先ほどご説明いたしましたけれども、やはり若い世代との交流というのは本市としても必要と考えております。先ほど申し上げたとおりの山城マイスターについては、また引き続き行っていきたいと思っておりますし、民俗芸能を継承する中で、どのような形で若者の人たちにつなげていくか。そのための活動につきましても、先ほど申し上げた地域のお宝制度に認定することで、そうした活動に本市の支援制度が適用できます。地域の皆様からのご相談にも応じながら、そうした活動を支援していきたいと考えております。

一方、コロナ禍での視点でありますけれども、コロナ禍で地域のお祭りなどが確かに相次いで中止となりました。多くの伝承芸能におきまして、発表の場の機会が失われておりました。

このことに伴いまして、本市としては、伝承芸能の大きな役割を果たしている練習の機会、また発表の場を創出するために、令和3年度から、今年で4年目となりますけれども、今年でいくと金沢駅の東広場で10月5日に、先ほど説明いたしました懇話会のメンバーの各団体の方が民俗芸能を披露する機会を設けております。特に今年につきましては、能登半島地震の復興という支援もございましたので、能登地方の民俗芸能につきましても一緒に発表させていただいたところでございます。

そうした発表の機会というのを今後とも引き続き設けていきたいと考えておりますので、先ほど申し上げたとおり、懇話会のほうに、ぜひ地域のお宝の団体の方にもご参加をいただきまして、その活動の中で、発表の機会を確保していきたいというふうに考えております。

引き続き、どうぞご協力をよろしくお願ひしたいと思っております。

一方、そうした取組の中で、地域に働く場、また、お金を落とすというような視点。それは文化だけではなくて、商業振興やまちづくりといった、大きな視点で考えていく必要があると思っております。

本市では、先ほど市長からご説明したとおり、昨年度、新たな都市像を策定しておりま

す。その中におきましては、未来共創計画というのを策定する中で、その計画の横軸に文化を強みに多様な分野での活用というものを大きく掲げております。多様な分野の活用の中には、当然、経済の視点につきましても、文化の強みを活用していくというような考え方もございますので、頂いたご意見につきましては、庁内、特に経済局等関係部局と連携を図りながら、そうした広範囲な視点での文化の活用というものにつきまして検討を進めていきたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

#### 【村山市長】

団塊の世代の一番下ということですが、私、団塊ジュニアの世代の一番上ぐらいになりまして、この後をどう引き継いでいくかということは非常に大事な課題だと思っていますし、先ほどの他所者、よそ者という視点でいけば、私ももともとよそ者であります。

そういった中で、どういった視点を活用していくかということ。この未来共創計画の中でも、一つ民間の事業者の活用、あるいは若者の活用、そしてもう一つは、よそ者というが移住者の活用というのも考えています。

大学の先生をしていた時代、地域活性化のキーパーソン、よそ者、若者、ばか者と言っていましたけれども、そのよそ者やばか者をどう活用していくかということが大事な視点であろうと思います。

三谷地区、限界集落になりつつあるのかもしれませんが、他の限界集落との大きな違いは、金沢市にあるということだと思っています。金沢市の強み、もちろん他の地域からの来街者、観光客が多いということもありますけれども、一つの大きな強みは、大学などの高等教育機関が多数あるということだと思っています。この力をぜひ地域振興に使っていききたいというのが私の政策の一つでもあります。

大学の先生をしていた時代のときに、私、香川だったので、瀬戸内海の離島などで教育をしたりもしました。そこで課題を見つけていくということだけではなくて、課題に対する対応策を考えるだけだと、じゃ誰がやるんだということになりますので、対応策を学生にやらせる。それによって学生の自分たちの成長にもつながる、教育にもつながるといふ効果がある。

それを今、市内の大学に対して、こういった教育ができないかということを持ちかけて、幾つかの大学で少しずつその芽が出てきている。それをブラッシュアップしていったら、これを地域で活動してもらえば、より金沢の各地域での発展にもつながるだろ

うというような政策を進めていっているところであります。

また、学校の跡地の利活用についてもご提案をいただきました。ここの地域でお話をいただいたことが一つのヒントになっていくだろうとも思いますので、そういったことも踏まえながら、今後の三谷地区の活性化について共に考えていければと思っています。

#### (4) 共通課題について

「共通課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

#### 【村山市長】

チョイソコかなざわにつきまして、地域でご理解をいただいて、そして運営をいただいているということに改めて感謝を申し上げたいと思います。

当初、バスの運行区間が短くなる、廃止の路線も出てくるという中であって、その解決とまでいくかどうか分からないけれども、このチョイソコをご提案させていただいた中で、もともとのバスよりも便利になったんじゃないかという声まで聞くようになった。それだけ地元で愛していただいているということ。これは、チョイソコの導入に苦労したというか、導入に向けて努力をした市職員のほうにも直接聞かせてあげたいなと思うような、とてもうれしい事態になっていると思います。

それだからこそ、チョイソコについてのさらなる要望が出てきたのかと思います。

こういったところ、解決すべき課題、運行時間が1時間増えるというだけではなくて、それによつての物流の2024年問題とも言いますけれども、運転手の労働時間規制にも関わってくるということで、簡単なハードルではないということをご承知おきいただければと思いますけれども、ただ、そういったニーズを一つ一つ解決していくというのが我々と、あるいは地域の方々との努力になると思いますので、ぜひこれからも、よりよい運行の仕方に向けてご意見をいただければと思います。

#### (5) 質疑応答、意見交換

#### 【薬師谷地区町会連合会】

先ほど市長さんのお話もありましたように、10月14日に塚崎町で新しくできます保育所の起工式がございまして、ご出席いただきました。大変立派なものをつくっていただくわ

けですけれども、先ほどからお話がありますように、人口減少はしょうがないこと、仕方がないことというふうに受け止めていたのでは、せっかくなつくっていただいたところに園児が結局いなくなって入ってこなくなってしまうという状況が見えてきているかと思えます。

片方で、少し乱暴な言い方をしますと、新しい小学校を1つも2つもつくらなければいけない地域があるにもかかわらず、三谷小学校は、33年前に三谷の4地区の学校が統合して、その当時136名いた生徒さんが来年結局1人とか2人とかになってしまうために、不動寺小学校と統合せざるを得ない。そして先ほどもお話ありましたけれども、二百何十人いた不動寺小学校の生徒も七十三、四名というところになってきています。

これは、金沢市は、あるところには人口が増えて、学校を増やしていけばいいけれども、そうでないところは人口が減っていくのは仕方がないことだと。結局、住宅が建てられない、人が住めない状態になっていくことをそのまま何もしないで見ているだけという状況ではないか。乱暴な言い方をすると。

そういうことを、歴史を踏まえてきたところの地域が、クマとタヌキとイノシシがいっぱい増えて、しょうがない、人口が減っていくのはしょうがないというだけでいるようでしたら、非常に200年という歴史、伝統を踏まえて築き上げてきた、土地を守ってきた私たちにとっては非常に悲しいことであるというふうに思います。

それを何らかの形で、法律に風穴を開けるぐらいのつもりでやっていただかないと、ますますこの人口は減っていくばかりになるんじゃないかなというところで、やはり手をこまねいているだけでなく、何らかの具体的な施策というものをお示しいただきたいなというふうに思います。

#### 【村角都市政策局長】

人口減少、少子高齢化は、金沢に限らず、全国的な課題であります。その進捗の度合は、それぞれ違ってくるものと思います。問題は、そのことに対して、どのような手だてを講じてかが必要になってくるわけでありましたが、そのためには、例えばこの北部地区における様々な実情など、その地域の実情に即した形で対策を考えていくことが効果があり、必要なことではないかと思えます。

この先を見ても、日本の人口は減っていく。子供が増えないという状況は変わらないと思いますので、そうした環境の下、新たな取組を地元の方々と行政がともに知恵を出し合

って協働して進めていけばいいのか。本日のまちづくりミーティングなどを通じて、解決策、具体策の提案にもつながってくるのではないかと思います。

今すぐに答えが出るようなものでもないと思います。できること、できないこと、検討すべきもの。検討した結果できるもの、あるいはできないものもあるかもしれませんが、少しずつ前に進めるように我々も努力をしていきたいというふうに思いますので、引き続き地域の皆様のご協力をお願いしたいと思います。

## (6) 市長まとめ

### 【村山市長】

最後の追加質問に対して、そちらも含めてお答えをしたいと思います。

今回、5地区ですけれども、旧森本町についてという話をすると、一番最後に合併したから森本の発展は遅れたんだみたいなことをよくどこでも聞くんですけども、何を言っているんだと。昭和20年代に合併して、そこから70年もたって、まだそんなことを言わなければいけないのかということで、そこが金沢市長になるに当たっての最初のこの地区に対する違和感でした。

そういう形ではなく、森本、あるいは各5地区の特徴をどのように際立たせるか、魅力を深めることこそが大事であろうと思っているんです。

花園駅あるいは宅地開発の話もありましたけれども、それを行っただけでは、花園が仮に一時的に人が増えたとしても、30年たてばまた変わるだろう、もとに戻るだろうと思いますし、これは市街化調整区域を外したからといって人が来るのか、来たとしても、その後持続的な発展ができるのかということを考えなければいけないと思うんです。

まず第1として、その地域の魅力づくりは、先ほどもお話があったように、魅力はもともあるんですけども、それをどのように発掘していくか、あるいは自覚していくか。それが一番の核になるであろうと思いますし、その魅力的なところについて、例えば10月14日に起工式を行った森本での新しい保育所、あるいは子育て拠点施設についても、そのような核になっていくところになっていくだろうと思っているんです。

人口の減少が続いてきた中央地区も学校の統廃合が進んできましたが、今、中央小あるいはその地区の長土堀や長町などの社会体育大会などに行くと、子供の数がちょっと増えたんじゃないかと言われるようになってきました。

そうした本来の魅力であったり、あるいはそこにつけ加わった、例えば子育てについて

そこは魅力があるということ。そういったことが、地域の魅力と、そこに対しての行政の政策とが呼応していけば、そこが反転していくというような可能性も起きるんじゃないかと思っています。

三谷地区では、地域おこし協力隊に1人入っていただいた後で、もう一回、さらに2人ご夫婦で入っていただいて、今地域での活動もしていただいていますけれども、そういったよそから目線、あるいは若者の視点を、それは1人か2人でしかないと思うので、そこを地域としていかに支えていただいて、その魅力をさらに高めていくか。

私は北部、特に山間部に行くのが大好きで何度も行っているんですけども、そこに行くたびに、その魅力の掘り起こし、あるいは地域の魅力の再確認、あるいは歴史的なところも含めて大事にしてきたところというものを、それを先ほど、そこを地域で守り立ててということを三谷の小学校の跡地の活用のお話で出てきましたけれども、それをさらに若い世代が考えてきたというようなところ、あるいは肉づけをしていくということができれば、さらに今後の次世代への継承につながっていく可能性があるんじゃないかとも捉えています。

魅力がまだまだ詰まっているのがこの各地域だと思いますので、我々の地域力再生課、あるいは企画調整課のほうでも、北部振興について共に考えているところですので、これは地域と一緒にしなければできない課題、そして金沢市で唯一直面した大きな課題。これが金沢市の全域の課題にこれからなっていくというテストケースだと考えて、共にこれから地域の発展のために考えていきたいと思っています。

本日は本当に様々なご意見をいただいて、幅の広い議論ができたと思っています。有意義な時間を過ごせたと思います。いろんなことがある10月27日の直前に、お集まりいただいただけのことはあったなと思っています。

本当にありがとうございました。